

「TOTOMOは鎌倉市図書館百周年とどうかかわってきたのか」

図書館とともにだち・鎌倉 黒瀬聖子

(1) 市民提案協働事業

平成20年度(2008年度)～22年度(2010年度)実施

図書館とともにだちになろう(図書館振興)事業

事業の目的

協働事業者と市が協働で事業を企画・立案し取り組むことで、図書館の存在意義を広くアピールし、市民の図書館利用の促進に寄与するとともに図書館の振興・発展を図る。

実施事業

- ◇ 年齢別、対象別の講座・講演会開催
- ◇ 図書館まつり(ファンタスティック ライブラリー)開催
{コンサート、落語会、カフェ、おはなし会等}
- ◇ 図書館見学会 鎌倉市中央図書館見学会 他自治体図書館、大学図書館見学会等
- ◇ 託児サービス、手話通訳実施

成果・効果

- ◇ 図書館の魅力発見、可能性の発見
 - ・ 市民の、図書館への信頼度の高さを確認できた。
 - ・ 多様な事業実施により、利用者の層が広がり、利用される資料の幅も広がる。
 - ・ 「ようやく図書館の集会機能を発揮できた」 - 図書館職員
- ◇ 他の市民団体との協体制づくり
 - ・ 映画会開催、おはなし会開催
 - ・ 図書館を拠点とする市民団体の交流会実施 百周年事業での協体制につながる
- ◇ 事業終了後の2011年度も、いくつかの事業は継続された。

課題

- ◇ 立場の違い、考え方の違い
市の見解 VS 担当課の見解 VS 市民の見解 徹底的な話し合いが必要
- ◇ 制度の不備
 - ・ 予算 当事者にもわからない予算決定のプロセス
 - ・ 評価 第三者評価が行われていない(実施団体と担当課の当事者評価のみ)
 - ・ 報告 毎年報告書を市に提出し、公開報告会で報告するが、手ごたえがない。
- ◇ 市は協働事業にどのように取り組もうとしているのか
応募 プレゼン 評価(審議) 採択 協議 実施 報告
その後は実施団体と担当課任せ。
「前例」に固執しては、何も変えられない。
- ◇ 市民の側にも覚悟が必要
事業者として報酬(人件費)に値する仕事をする自覚と責任は十分だっただろうか。
- ◇ 事業目的、対象の設定をもっと明確に
3年間の事業は多くの利用者に歓迎されたが、その後の予算措置はなされなかった。
図書館の存在意義が、行政の中で確立されていない。